

国語 第6学年 筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の年間計画の読む5時間・書く5時間を合わせた単元。前半の読解で捉えた説明の工夫を、後半の日本文化を紹介する文章に使う。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、この文章で、絵に描かれている事実と書き手の評価や感想がどう区別され、どんな順番で並べられて読む人を絵巻の世界に引き込んでいるかを、叙述と絵を根拠に説明できる。書き出し、結論の位置、読む人への語りかけ、比喩や短い文の繰り返し、絵のどの部分をどの順で見せるかといった工夫を見つけ、その効果を文章にまとめ、友達と話し合って考えを広げられる。後半の書く学習では、読む学習で見付けた工夫を用いて日本文化を紹介する文章を作る。事実と感想・意見を読み手が区別でき、選んだ表現の理由を説明できることを目指す。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中での語句の係り方や語順，文と文との接続の関係，話や文章の構成や展開，話や文章の種類とその特徴について理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ク	ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)イ	イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)ア	ア 事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)ウ	ウ 目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)オ	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。
〔第5学年及び第6学年〕C読むこと(2)ア	ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み，分かったことや考えたことを，話し合ったり文章にまとめたりする活動。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

単元の目標

文章の構成や展開について理解し、比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる（(1)カ・ク）。事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえて要旨を把握し、文章と絵を結び付けて、論の進め方について考えることができる（C(1)ア・ウ）。言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語

の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。日本文化を紹介するために、事実と感想・意見を区別し、伝えたいことに合わせて詳しくや表現を工夫して書ける（B(1)ウ）。

評価規準（3観点）

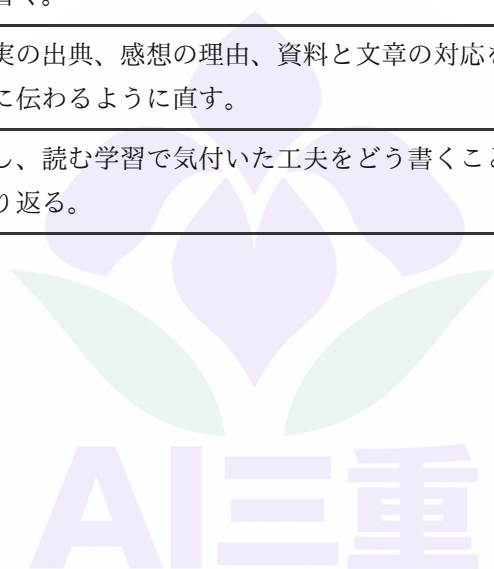
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 ((1)カ) ②比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク)	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ③「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(C(1)カ) ④「書くこと」において、紹介する目的に合わせて詳しく書く所と短く書く所を選び、事実と感想・意見を区別して、日本文化を紹介する文章を書いている。(B(1)ウ)	①粘り強く論の進め方について考え、学習課題に沿って、表現の工夫について考えたことを文章にまとめて話し合おうとしている。

単元の流れ

光村図書出版『国語（令和6年度版）』年間指導計画による全10時間（書⑤、読⑤）。各時への活動の配分と本時の選定は、本案の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○高山寺の公式サイトなどで絵巻の図版を見て、気付いたことを出し合う。 ○全文を読み、文章の種類（絵を解説する文章）と書いた人を確かめる。絵巻の時代と所蔵を、文章と公式サイトで確かめる。 ○単元の課題「どんな工夫でこの絵巻のよさを読む人に伝えているか」を決め、最後に自分の考えを文章にまとめて話し合う見通しをもつ。	態①（見通しの記述）
第2次	2	○段落ごとに、絵に描かれていることを述べた文と、評価や感想の文を色分けする。 ○文章全体の組み立てと要旨を一文にまとめる。	知①・思①（色分けシート・ノート）
	3 （本時）	○書き出し・結論の位置・語りかけ・比喩や繰り返し・絵の見せ方の工夫を見つけ、「なかったら」と比べて効果を考える。	知②・思②（工夫カード・振り返り）
	4	○いちばん効果的だと考える工夫を一つ選び、叙述と絵を根拠に理由を書いて文章にまとめる。	思②（まとめた文章）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	5	○グループで文章を読み合い、同じ工夫を選んだ人の理由の違いと、違う工夫を選んだ人の根拠を話し合い、自分の文章に一文書き足す。 ○学校図書館で絵巻や日本の文化の本を探し、読みたい本を一冊決める。 ○単元を振り返る。	思③（書き足した一文・発言） 態①（振り返り・話し合いの様子）
第4次	6	○紹介したい日本文化と読む相手を決め、確かめた事実と自分が感じるよさを分けて材料を集める。	知①（材料の分類）
	7	○紹介の中心を決め、資料の出典を確認する。前半で読んだ説明の工夫から、自分の文章で使うものを選ぶ。	思④（構成メモ）
	8	○事実と感想・意見を区別し、詳しくする所と短くする所を考えて紹介文を書く。	思④（下書き）
	9	○読み合い、事実の出典、感想の理由、資料と文章の対応を確かめ、読み手に伝わるように直す。	思④（推敲前後の文章）
	10	○紹介文を交流し、読む学習で気付いた工夫をどう書くことに使ったかを振り返る。	思④・態①（完成稿・振り返り）



本時の案

本時の目標：論の進め方と表現の工夫を見つけ、絵と文章を結び付けて、読む人への効果を説明できる。
((1)カ・ク、C(1)ウ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前時の色分けシートで、事実の文と評価の文がどの順に並んでいるかを確認する。 2 主発問について、予想を一文で書く。 ○「もし、絵の説明より先に評価を全部述べていたら、読む人の受け取り方はどう変わるだろう」 【めあて】論の進め方と表現の工夫を見つけ、読む人への効果を考えよう。	・前時の色分けシートを黒板に貼る。 ・予想を一文で書いてから活動に入る。 発問を重ねず、叙述を基に考える時間を長く取る。
展開 (分)	3 一人で、書き出しの一文、結論にあたる文、読む人に語りかける言い方、比喻や繰り返し、短い文が続く所に印を付ける。 4 ペアで、印を付けた所を一つ選び、「この言い方がなかったら」「順番が逆だったら」と置き換えて、読む人の気持ちはどう変わるかを話す。 5 グループで、教科書の絵の部分と公式サイトなどの絵巻全体を見比べ、なぜその部分をその順番で見せたのかを、文章の進み方と結び付けて考える。 〈予想される児童の反応〉 ・絵の説明が先だから、読む人も自分の目で確かめながら読める。 ・評価が後に来ると、絵を見てきた分だけ納得できる。 ・語りかけがあると、自分も答えを探しながら読む。	・引用は教科書の該当箇所を開いて指す。絵巻は「鳥獣人物戯画」と呼び、兎と蛙が相撲をとる場面など、場面の呼び方で話す。 ・印が付けられない子には「書いた人の気持ちが入っている言葉か、絵にあることか」の二択で問う。 ・事実と評価の区別が崩れたら、前時の色分けに戻す。 ・読みにくい子には拡大した写しを用意し、必要なら音声で聞かせる。 ・端末がある学級では、公式サイトで絵巻全体を各自が拡大して見る。 ・進んでいる子には「自分が絵の解説文を書くなら、どの工夫を使うか」を考えさせ、次の書くことの単元につなぐ。 ◎知② 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(工夫カード)
まとめ (分)	6 振り返りを書く。工夫の一つを選び、その効果を「絵」「読む人」の二つの言葉を使って二文で書く。 7 数人が振り返りを読む。 8 次時の学習を知る。	・振り返りの型を板書の左端に示しておく。 ・次時は、工夫の一つ選んで理由を文章にまとめることを伝える。 ◎思② 文章と絵を結び付けて、論の進め方や表現の工夫が読む人に与える効果を考えている。(振り返り・工夫カード)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端：題名と書いた人の名前、めあて「論の進め方と表現の工夫を見つけ、読む人への効果を考えよう」。

中央右：段落の並びを帯で示し、事実の文を青、評価の文を赤で表す。

中央左：工夫の三つの箱（組み立て・言葉の使い方・絵の見せ方）と、矢印の先の効果。

左側：合い言葉「事実と評価を区別する」「絵と文章を結び付ける」。

左端：振り返りの型。

つまずきやすい所と手当て

いちばんのつまずきは、事実（絵に描かれていること）と評価・感想を見分けられないことである。第2時に、文末の言い方（断定か、感想や問いかけか）と、絵を見て確かめられるか、の二つの手がかりで色分ける。絵を見ずに文章だけで進む子には、絵の該当部分を指してから文を読む手順にする。「工夫」と「絵巻のよさ」を混同する子には、「文章を書いた人がしたこと」と「絵がもっているもの」を分けて問う。要旨を抜き書きで作る子には、自分の言葉で一文に言い直させる。絵巻・墨・筆遣いなど知らない語は、辞書や公式サイトで調べる（第3の2(1)イ）。古い絵だと構える子には、動物の動きや表情から入る。

プリントの案

事実と評価の色分けシート

段落ごとに、事実の文と評価・感想の文を色で分ける欄。段落の番号と文の位置は先生が入れる。下に要旨を一文で書く枠。

工夫カード

組み立て・言葉の使い方・絵の見せ方の三つの箱。見つけた工夫、その場所（先生が示す）、「なかったら」と比べた結果、読む人への効果を書く。

絵と文章の照合シート

絵巻の部分の呼び方（兎と蛙が相撲をとる場面など）と、それを述べた文の場所（先生が入れる）を線で結び、見せた順番と理由を書く欄。

考えをまとめる用紙と振り返りカード

いちばん効果的だと考える工夫、根拠の叙述の場所、絵との関係、自分の考え、読み合いで書き足す一文。毎時間の振り返りは工夫→効果の二文。

日本文化の紹介文の準備

紹介の中心、調べた事実と出典、自分の感想や意見、使いたい説明の工夫、詳しく書く部分、推敲で直した所を記録する。資料を引用する場合は引用部分と自分の文を区別する。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年3月）公式PDF。評価規準の形と文末の出典（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／光村図書 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書 6年 年間指導計画例 PDF。単元10時間（書5・読5）の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1b6546e9-9eb1-4be3-81ce-0258de11f1ed/368）／光村図書 教材別資料一覧・関連リンク 6年。『『鳥獣戯画』を読む』の掲載の確認（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/material6nen>）／高山寺公式サイト「鳥獣人物戯画」。国宝・平安・鎌倉時代・所蔵の確認（<https://kosanji.com/chojujinbutsugiga/>）／光村図書出版 年間指導計画。現在の単元範囲・時数・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」137行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

